

はじめに

——003

壱の巻 いにしえ

第一の章	高札場界隈	——011
第一の章	高札場へ	——013
第二の章	七面堂の怪	——014
第四の章	蚕影山祠堂	——017
第五の章	蚕民騷擾録	——019
第六の章	山伏の谷戸	——024
第七の章	山伏は今、何処	——033
		——035

式の巻 岡上村

第八の章	鶴見川春秋	——041
第九の章	飛地岡上	——043
第十の章	自然村と行政村	——049
		——051

第十一の章 イッケ——同族集團

第十一の章 屋号と村落社会

第十三の章 ジシンルイトイッケ

第十四の章 講中と組合

第十五の章 宮野イッケ

参の巻 戦争、そして戦後

第十六の章 遙かなり、戦後五十年

第十七の章 それぞれの戦争体験

第十八の章 本土決戦

第十九の章 岡上被爆

第十の章 穴掘帳

第十一の章 農地改革

四の巻 年中行事

第十一の章 めかり婆の来る日

第十二の章 滅びしものへの挽歌

第十四の章 どんど焼き

第十五の章 初午の行事

——101

——103

——112

——118

——123

五の巻 二つの顔

第1十六の章	岡上の二つの顔	133
第1十七の章	三つ目の顔	135
第1十八の章	逢坂山周辺	138

第1十九の章 "自性寺"の不思議

第二十の章	麗しき「水茎の岡上の里」	149
第二十一の章	岡上西町会	155

六の巻 坂と道と

第二十二の章	おんじょね坂	161
第二十三の章	幻の和光大通り	163
第二十四の章	道と街区と人びと	165
第二十五の章	石造物への道	169

第二十六の章	東京湾岸道路	173
		176

七の巻 食となりわい

第二十七の章	禪寺丸哀愁	185
第二十八の章	四つの世界	189
第二十九の章	農婦——問わず語り	193
第三十の章	家族——その現実	199

八の巻 地域社会と教育

第四十一の章	林檎の丘	205
第四十二の章	蕎麦とうじん	208
第四十三の章	麦を喰え	214
第四十四の章	畠下がり、農家の庭先で	221
		225
第四十五の章	分教場——村の可愛い学校	227
第四十六の章	東と西の接点——通学路	235
第四十七の章	岡上文化センター	242
第四十八の章	振り籠から墓場まで——生涯教育	248

九の巻 火の祭り

第四十九の章	一九九六年——平成丙子・一月七日	255
第五十の章	火の祭典——セエの神祭り・子のもの祭り	257
第五十一の章	一九九七年——平成丁丑・じんじ焼き	260
第五十二の章	岡上は、今	265
		268

〔補遺〕

門も塀もない"無流大学"、岡上の未来のためい

283

後書きにかえて

294